

| | 項目 | 委員からの質問・意見・提案等 | 協議会での回答 | その後の対応 |
|---|--------|---|---|---|
| <p>議題1 平成30年度の博物館活動について 議題2 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画 平成30年度取組状況について</p> | | | | |
| 1 | 研究時間 | 研究時間でもお聞きしていますが、多くの行事をされているが、職員の行事にかかる時間についても調査をお願いしたい。 | リニューアルもあり、研究もあり、地域連携もあり、多くの行事をこなしている。働き方改革もあるので、職員の勤務時間について、一度調査を行いたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2018年11月～12月内の任意の1週間について、研究時間の現状調査を行った(研究部の3領域ごとに2～3名を選出、6名から回答があった)。その結果、業務5日間のうち、日平均で2.7時間の研究時間があつた。 ・研究と研究以外の業務は、1:3～4の比率になっている。 ・この傾向は、昨年度(2018年1月～2月)の実施では1:7～8の比率から減少しているものの、多様な博物館業務をこなしている実態を示していると思われる。 |
| 2 | 企業連携 | <p>企業連携で、企業名を冠した企画等について、博物館として、どういった位置づけとされているのか</p> <p>ガイドラインを作るなど、企業が参加しやすい形を整えてほしい</p> | <p>県と伊藤園との包括連携協定に基づく事業であり、博物館もそれに参加した。企業連携が、共存関係を築いていけるものになりたい。</p> <p>今後いろいろな企業と連携をしていくことになるが、一度整理したい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・企業連携に基づく交流により、博物館との共存関係を築くこととし、サポーター企業のCSR活動の発信について、館で協力している。 ・ガイドラインについては今後検討する。 |
| <p>議題3 来館者を増やす取組について</p> | | | | |
| 3 | 地元自治会等 | 自治会、老人会がねらい目では | | <p>老人クラブ連合会、地域女性団体連合会、子ども会連合会には、毎年度当初に来館いただくよう働きかけをしている。</p> <p>県自治会連合会には事務局を通じ情報発信の協力を依頼しているところ。</p> <p>地元草津市には自治会連合会やまちづくり課等を通じ、地域へのチラシ配布や誘客の取り組みを行っている。今後はこうした取り組みを他の市町等にも広げていく。</p> |

| | 項目 | 委員からの質問・意見・提案等 | 協議会での回答 | その後の対応 |
|----|-----------|--|---------|--|
| 4 | 高校生・大学生向け | 子どものころに来た高校生や大学生へのフォローの意味でアプローチを考えてみればよいのでは | | <ul style="list-style-type: none"> ・学校等を通じた来館の働きかけや、若者に向けイベント等の開催により、来館を促したい。 ・環境活動を実践している大学生や高校生が交流する機会として、びわ博学生ミーティングを開催している。 ・環境をキーワードに、学生たちの環境活動の活性化と琵琶湖博物館の利用を促進したい。 |
| 5 | 学校連携 | うみのことの連携を積極的に進めてもらいたい。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・現在烏丸港への寄港ができるように、教育委員会および烏丸港を管理をしている水資源開発機構へ働きかけをしているところ。 |
| 6 | | 先生方に向けても、博物館の魅力を伝えたり、リニューアルの情報を流してもらいたい。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修や理科部会等で琵琶湖博物館の見どころ紹介や最新の情報を発信している。 ・小学校については各校を訪問し、博物館の魅力を伝え、来館を働きかけている。 ・学校向けの情報発信を強化するよう努めたい。 |
| 7 | | 教員がそれぞれの学校に持ち帰れるような魅力を伝えるようなものがあればよい | | |
| 8 | | 中学校の先生に向けて、リニューアル情報を流すなど、もっと積極的に県内の学校にPRしてもらいたい。 | | |
| 9 | | 学校等で生き物を飼う場合のサポートをしてもらえたら。 | | |
| 10 | | 魚釣りであるとか、虫取りなど色々な体験を子供にも教えたいと思う親も多いが、親世代も実際に自分が体験をしていないので、子供に聞かれたときに、答えられないこともある。体験等を考える際にはこの点にも注意してもらいたい。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「わくたん」をはじめ、親子で参加して一緒に体験しながら学べるようなイベント等も実施している。 |

| | 項目 | 委員からの質問・意見・提案等 | 協議会での回答 | その後の対応 |
|----|------------|---|---------|--|
| 11 | | 新学習指導要領では探究心であるとか自分で考えて学ぶ力をつけるための学習等が必要とされている。総合的な時間を使つての来館が多い。総合的な時間＝生きる力を学ぶ時間であり、博物館は展示はもとより学芸員の仕事の魅力なども教えてもらいたい。 | | ・子どもたちに展示のみならず博物館の魅力を伝えることは大切だと考えている。職場体験などの受入れも行っているので、その中で学芸員の仕事の魅力などを伝えていきたい。 |
| 12 | 家族ふれあいサンデー | 家族ふれあいサンデーの回数を増やすことはできないのか | | ・家族ふれあいサンデーは、滋賀県として県内の他の施設も含めて実施している。こどもの日、関西文化の日と併せて年15日無料開放を実施している。 |

議題4 第3期リニューアルについて

| | | | | |
|----|--|--|--|---|
| 13 | | 六道めぐりとかムラの信仰とかについて興味がある。 戦国の武将の半分は滋賀県とゆかりがある。戦国は今ブームになっている所もあるので、もう少し戦国の武将にまつわる展示(例えば、庶民との暮らしとかからめてとか)を取り上げてみてはどうか。 | | ・安土城考古博物館との棲み分けや、今回の「自然と暮らしの歴史」というコンセプトから、戦国武将にまつわる展示を取り上げることはできないが、念仏信仰、山の神信仰、野神信仰などのムラをめぐる様々な信仰は取り上げる計画としている。 |
| 14 | | リニューアルにかかる予算、スケジューリング等も教えてもらいたい。 | | 【第3期事業費】 約7.5億円 (実施設計0.3億円、展示工事7.2億円) 【第3期スケジュール】 平成30年度 実施設計 平成31年度 展示工事着手 平成32年度 展示工事・オープン |

その他

| | | | | |
|----|-------|------------------------------|--|--|
| 15 | 来館者調査 | 来館者調査はどのような調査で、そのように利用しているのか | | ・年2回実施。長期的な傾向をみるため、質問事項は回答者の属性(住居、年齢、交通手段等)が主であり、広報活動等に活かしている。 |
|----|-------|------------------------------|--|--|

| | 項目 | 委員からの質問・意見・提案等 | 協議会での回答 | その後の対応 |
|----|----|--|---------|--|
| 16 | 展示 | 空から見た琵琶湖の写真は20年前のものだが、どこかに撮影日とかを記載してほしい | | 「空から見た琵琶湖」という展示の簡単な紹介という形で、A4のパウチを1枚作成し、市町村境や河川の地図を入れたラックの上端に設置した。説明としては航空写真を陶板に焼き付けたものであること、10cmが1kmに相当すること(縮尺)、撮影時期が1993—94年であることを記した。 |
| 17 | 展示 | 開館からこれまでの20年間の資料を比べられるようにしてほしい | | ・20年前の写真であるという事は重要であるが、現在との比較資料を作成するのは難しいと考えている。理由は二つ。まず「現在」は常に変わり続けるということです。ふたつめは、私たちが用意できる比較というのがごくわずかしかないということです。高速道路の延伸や埋め立ての進行、有名な施設の出現(あるいは廃止)などを取り上げることはできません。それが利用者が比較したい話題であるとは限りません。実際に展示室で対応していると、むしろもっと個人的な行動範囲の比較が話題になっている。したがって、前述の私たちが用意できる比較というのは、20年間で確かに変わっているという気付きを誘導する機能に留まってしまふことから、20年前の写真であるという情報で十分であると考えている。 |
| 18 | 展示 | おとなのディスカバリーの椅子が重そうで、お年寄りの方が一人で立ち上がるのに苦労をされていたので、配慮が欲しい | | ・展示室に常駐している展示交流員が対応する。 |